第３次大阪府歯科口腔保健計画（案）の概要について

第３次計画の考え方について

１つ目　章立ての構成については基本的に第２次計画を踏襲しつつ、具体的な取組みについてはライフステージ別での記載に加え、ライフコースの取組みも意識し、新たな指標を設置する

２つ目　第２次計画で課題となった歯周病対策を重点とし、各ライフステージでの取組みを通じて、歯科健診への受診をはじめとする生涯を通じた切れ目のない歯科口腔保健の推進に取組む。

第1章第3次計画の基本的事項について

1つ目　計画策定の経緯

⻭と⼝の健康は、全⾝の健康を保持する上で基本的かつ重要な役割を担っており、府⺠が⽣涯を通じて豊かな⽣活を送るために、⻭と⼝の健康を保持することがとても重要な役割を担っている。そのため、⻭科⼝腔保健の推進に関する⽬標を達成するための必要な施策の⽅向を⽰し、その解決を図るための取組みを総合的かつ計画的に推進する。

2つ目　計画の位置づけ

歯科口腔保健の推進に関する法律第13条第1項に基づく都道府県計画

大阪府健康増進計画、大阪府食育推進計画、大阪府医療計画、大阪府医療費適正化計画、大阪府高齢者計画など他計画との整合を図る

3つ目　計画の期間

令和6（2024）年度から令和17（2035）年度までの12年間

第2章第2次計画の評価について

評価概要

数値⽬標として設定している項目は1３種類

⽬標値に達した項目は７つ

⽬標値に達していないものの、ベースライン値と⽐較して改善傾向にある項目は２つ

ベースライン値と同程度で、明確な改善傾向も悪化傾向もみられない項目はなし

ベースライン値よりも悪化している項目は2つ

ベースラインの変更等により評価ができない項目は2つ

成果としては、むし⻭の指標をはじめ、ほぼ⽬標は達成されている

課題としては、⻭周病の指標は悪化したため、定期的な⻭科健診の受診強化が必要と、⻭の本数指標が国調査の影響を受ける。府独⾃調査とするか検討必要

第3章府⺠の⻭と⼝の健康をめぐる現状と課題について

５つの区分で表す。

１つ目、乳幼児期では、むし⻭は減少傾向も、３歳児は全国と⽐べて低い状況。

２つ目、 少年期では、むし⻭は減少傾向で、全国と同程度。

３つ目、⻘壮年期では、むし⻭は減少傾向も、⻭周病治療が必要な府⺠は増加。若年層ほど定期的な⻭科健診を受診する割合は低い。

４つ目、中年期・⾼齢期では、むし⻭は減少傾向。6024・8020達成者は横ばい、⻭周病治療必要者は増加、咀嚼良好者の割合は増加。

５つ目、歯科受診をすることへ配慮が必要な人では、定期的な⻭科健診を実施する介護⽼⼈保健施設等は約５割、障がい児者⼊所施設は約７割と改善を認める。

第4章基本的な考え⽅

基本理念、基本目標、基本方針で表す。

基本理念は、全ての府⺠が健やかで⼼豊かに⽣活できる活⼒ある社会（※健康づくり関連計画と協調）

基本⽬標は、⻭と⼝の健康づくりによる健康寿命の延伸・健康格差の縮⼩，⻭科⼝腔保健の推進のための社会環境の整備

基本⽅針は、(1) ⻭科疾患の予防・早期発⾒、⼝の機能の維持向上、(2)ライフコースに沿った⻭と⼝の健康づくりを⽀える社会環境整備

第5章取組みと⽬標

大きく２つの取組みで表す。

1つ目の取組みは ⻭科疾患の予防・早期発⾒、⼝の機能の維持向上。これを５つの区分で表す。

１つ目、乳幼児期について

具体的な取組みは、関係機関と連携し、⼦どもや保護者に対して、⻭と⼝の健康づくり良好者の表彰等を通じた普及啓発など

府民の行動目標は、⻭科健診等を通して、こどもの⻭と⼝の現状や、むし⻭のリスクを把握しますなど

主な指標は、むし⻭のない者の割合（３歳児）

２つ目、少年期について

具体的な取組みは、好ましい⻭科保健⾏動や習慣を児童・⽣徒が⾝につけることができるよう、⻭科保健指導を担う学校保健専⾨職（学校⻭科医等）と連携した、児童・⽣徒への働きかけなど

府民の行動目標は、乳⻭や永久⻭がむし⻭にならないよう、家庭や学校などを通じて、⻭みがき習慣を⾝につけますなど

主な指標は、むし⻭のない者の割合（12歳）

３つ目、⻘年期・壮年期について

具体的な取組みは、成⼈⻭科健診（⻭周病検診）受診の必要性や実施状況について、啓発資材を作成。また、地域の商⼯会議所、協会けんぽなどの医療保険者などと連携した啓発の充実など

府民の行動目標は、市町村で実施している成⼈⻭科健診（⻭周病検診）などを活⽤し、定期的に⻭科健診を受診しますなど

主な指標は、むし⻭のない者の割合（１6歳）や、過去１年に⻭科健診を受診した者の割合

４つ目、中年期・⾼齢期について

具体的な取組みは、咀嚼(そしゃく)や嚥下(えんげ)に着⽬した⼝の機能の維持・向上のために必要な意識について多職種との連携を通して普及啓発を⾏い、オーラルフレイル対策に取組むなど

府民の行動目標は、⼝の機能（⾷物を⼝に取り込み、かんで飲み込むこと、しっかり話せることなど）の維持・向上のために必要な知識を⾝につけるなど

主な指標は、咀嚼良好者の割合や、20本以上の⻭を有する者の割合（80歳以上）

５つ目、⻭科受診することへ配慮の必要な⼈（要介護者、障がい児者）について

具体的な取組みは、要介護者、障がい児者や家族、介護にあたる施設職員に対し、⻭と⼝の清掃及び定期的な⻭科健診等について、施設への出前講座や実地研修の機会などを活⽤し、情報提供など

府民の行動目標は、家庭や施設などにおいて、⻭間部清掃⽤器具（デンタルフロス、⻭間ブラシ等）を使った⻭と⼝の清掃を⾏いますなど

主な指標は、要介護⾼齢者施設での定期的な⻭科健診の実施や、障がい者及び障がい児⼊所施設での定期的な⻭科健診の実施状況

２つ目の取組みは、ライフコースに沿った⻭と⼝の健康づくりを⽀える社会環境整備（多様な主体との連携・協働）

具体的な取組みは、

・若い世代が⻭と⼝の健康にかかる意識づけや実践を⾏えるよう、⻭と⼝の健康づくりをテーマに含めてセミナーを実施する大学に対して、就職セミナーなどの場を活⽤し、啓発資材の提供や講師の派遣

・健康経営に取り組む事業者に対し、⻭と⼝の健康づくりの視点も含めるよう働きかける

・公⺠連携の枠組みを活⽤し、府⺠の健康づくりに取り組む⺠間企業と連携し、府⺠や事業者に対する情報発信、健康イベントの開催などを通じて、⻭と⼝の健康づくりにかかる普及啓発を推進等

府民の行動目標は、

・若い世代や働く世代などがかかりつけ⻭科医をもち、⻭科疾患の予防、早期発⾒等に取組めるよう、事業者や医療保険者、関係団体、市町村など多様な主体の連携・協働した取組みを⾏います等

・ライフステージ毎の⽬標に準拠等

主な指標は、

・４本以上むし⻭を有する者の割合妊婦⻭科健診を実施している市町村の増加

・法令で定めた年齢以外に成⼈⻭科健診を実施している市町村の増加

最後に、

府⺠の⻭と⼝の健康づくり関係団体等で構成する「大阪府⽣涯⻭科保健推進審議会」を活⽤し、関係機関が連携・協働して、オール大阪の体制により効果的な⻭と⼝の健康づくり施策を推進していく